

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	水産みらい投資推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	農林水産局水産振興課	根拠法令	なし		市内水産業は、漁業収入の減少や後継者不足が続いており、水産物のブランド化や国内外への販路拡大により水産業への魅力を生み出す必要があるため。			
開始年度	平成26年度	行政計画	水産業総合計画					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市沿岸漁業者 (福岡市漁業協同組合)	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○販路拡大とブランド化へ向けた取組(委託含む) ・コロナウイルスの影響によりイベントは中止となり、海外へのPRも滞ったが、過去に来福したトップシェフとは密に連絡を取り合い、唐泊恵比須かきを中心に福岡の水産物の輸出を継続した。 ・令和3年度には、新たにシンガポールへ唐泊恵比須かきを初めて出荷した。 ○養殖新技術の活用(委託) ・アサリの完全養殖サイクル技術を活用し、種苗増産及び育成体制の構築を行った。 ○ICT等を活用した養殖等の効率化 ・ICTプライを用いて、海水温や塩分濃度、溶存酸素量などの多項目についてモニタリングを行った。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 水産業総合計画の長期ビジョンである「魚の美味しいまち・福岡」を目指すためには、水産物のブランド化は必須であり、事業を継続していく必要がある。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 水産業生産者が、一次産品とその加工品、さらには付加されたサービスの企画・生産・加工・サービス提供を進め、ブランド化や国内外の販路拡大に取り組む。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																									
	・生産地やマーケティング拠点施設にて国内向けにPR活動を実施 ・それぞれの水産物に適した出荷方法の調査を実施 ・アサリ養殖の事業化に向けた調査・研究を実施	・生産地でのプレゼンテーションや、マーケティング拠点施設を活用したPR・商談により、市内一次産品やその加工品の認知度が上がる。 ・福岡市水産物のブランド力が高まる。 ・シェフやバイヤーからの注文が増える。 ・アサリの完全養殖サイクル技術を活用することにより、アサリの生産量・販売量が増加する。	・水産物の輸出量や新規顧客が増加。 ・アサリの計画生産を行うことにより、安定収入につながるとともに、国内海外流通量が拡大する。 ・各支所ごとの特色を生かした販売戦略を展開できる。	・国内での福岡市水産物の知名度がアップし、需要拡大する。 ・水産業生産者の所得向上する。 ・事業としての水産業の魅力が向上し、後継者不足が改善する。 ・ICTの活用により、生産力向上及び所得向上に繋がる。																																																																									
	活動の指標	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)	成果の指標(KPI)																																																																									
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">海外シェフやバイヤーの招へいと直接商談回数</td> <td>目標</td> <td>8.0</td> <td>8.0</td> <td rowspan="2">8.0</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2"></td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>#DIV/0!</td> <td>#DIV/0!</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	海外シェフやバイヤーの招へいと直接商談回数	目標	8.0	8.0	8.0	R年度	実績	0.0	0.0	—	達成率	0.0%	0.0%			目標				R年度	実績				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">海外シェフへの輸出産品数</td> <td>目標</td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td rowspan="2">5.0</td> <td>R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>80.0%</td> <td>80.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">水産物の輸出量(トン)</td> <td>目標</td> <td>57,972.0</td> <td>57,972.0</td> <td rowspan="2">57,972.0</td> <td>R8年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>57,600.0</td> <td>67,526.0</td> <td>57,972.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>99.4%</td> <td>116.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	海外シェフへの輸出産品数	目標	5.0	5.0	5.0	R年度	実績	4.0	4.0	—	達成率	80.0%	80.0%		水産物の輸出量(トン)	目標	57,972.0	57,972.0	57,972.0	R8年度	実績	57,600.0	67,526.0	57,972.0	達成率	99.4%	116.5%
指標の内容	実績		目標																																																																										
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																								
海外シェフやバイヤーの招へいと直接商談回数	目標	8.0	8.0	8.0	R年度																																																																								
	実績	0.0	0.0		—																																																																								
	達成率	0.0%	0.0%																																																																										
	目標				R年度																																																																								
	実績																																																																												
	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!																																																																										
指標の内容	実績		目標																																																																										
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																								
海外シェフへの輸出産品数	目標	5.0	5.0	5.0	R年度																																																																								
	実績	4.0	4.0		—																																																																								
	達成率	80.0%	80.0%																																																																										
水産物の輸出量(トン)	目標	57,972.0	57,972.0	57,972.0	R8年度																																																																								
	実績	57,600.0	67,526.0		57,972.0																																																																								
	達成率	99.4%	116.5%																																																																										

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	5-1-2	漁家1戸あたりの漁労所得 R3N: 2,680千円
	再	6-4-1	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ		
事業群	魅力の磨き上げ		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	11,675	
	特定財源	0	
	一般財源	11,675	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R2	R4
	歳出合計	9,543	15,862
	特定財源	0	0
一般財源	9,543	15,862	

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	就農応援事業(アグリチャレンジ、新規就農者相談・支援対応)			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	農林水産局農業振興課	根拠法令	なし		小規模農業者の育成を行う「ふくおか農業塾」と農家で実際に農業研修を行う「インターンシップ事業」を統合し、農業の基礎的研修から自営就農するための実地研修を行うことで、「農」との関わり方に対する市民の多様なニーズに応えるため。農業に強い関心を持つ新規就農希望者からの相談対応を行うことにより、独立自営できる新規就農者の育成を図るため。	
開始年度	ア)平成29年度 新)平成21年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 農業に高い関心を持つ市民、就農を目指す市民	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○アグリチャレンジ 【基礎研修】 受講生:9名(全員修了) 研修内容:農業の基礎知識の習得から野菜の栽培・出荷・販売体験まで 【インターンシップ】 受講生:1名(修了) 研修内容:軟弱野菜農家のもとで栽培技術や農業経営等について直接指導を受ける ○新規就農者相談・支援対応 市役所にて随時就農相談を受付、民間の就農イベントに出展など 就農相談件数:42件	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ・農業研修施設が民間の活動により運営されたり、生産部会で研修の受入れ体制が整ったりすれば、市は広報活動のみを行うなど、事業を縮小し継続する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・農業経営のノウハウや技術を学び新規就農者となる ・技術を持った市民が農家の労働力となる ・農業への理解が一段と高まる				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・研修生の募集 ・研修生を決定、受け入れ農家の決定 ・それぞれの研修コースに応じた研修を実施 ・随時就農相談を受け付け	・基礎研修を通して農業の基礎的知識・技術を学ぶ ・インターンシップを通して希望品目の専門的知識、農業経営のノウハウ等を学ぶ ・新規就農に向けた準備ができる ・農業への理解が深まる	・農業経営のノウハウや技術を持った新規就農者となる ・農業の基礎的知識・技術を持った市民が農家の労働力となる ・農業への理解が一段と高まる	・農業外から新規参入を支援することで、独立自営、農家雇用など多様な担い手を確保できる ・農業従事者の高齢化による、担い手不足を解消するとともに、耕作放棄地の未然防止、農地の有効活用ができる	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
活動の指標	アグリチャレンジの受講生数	14.0	19.0	19.0	R 年度
	目標	15.0	10.0	-	R 年度
	実績	107.1%	52.6%		R 年度
	達成率				R 年度

基 本 計 画		事業区分	重点
施策コード	主 再	6-4-1 -	なし
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円) ※「就農応援事業」全体			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計		3,282
歳入	特定財源		0
	一般財源		3,282
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
	歳出合計	3,283	3,295
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	3,283	3,295

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	農福連携推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	農林水産局農業振興課	根拠法令	なし		農業分野においては担い手不足や耕作放棄地の増加などの課題があり、福祉分野においては障がい者等の活躍の場を創出し雇用機会を確保することが課題であったところ、令和元年に国においては「農福連携等推進ビジョン」が策定され、市農業委員会から市長に対し農福連携を推進するよう「意見書」が提出された。			
開始年度	R2	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・人手不足の農業者 ・農業を仕事としたい障がい者や福祉事業所	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・人手不足の作業を福祉事業所に委託したいと考える農業者と農業で仕事をしたい福祉事業所をマッチング ・福祉事業所が農業に参画するにあたり農業技術を習得した職員を育成するため、福祉事業所職員を対象とした農業基礎研修を実施 ・農福連携に先進的に取り組む事業者を視察	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ・農業者が福祉事業所に対しスムーズに農作業を委託するためのノウハウを持ち、福岡県の農福連携マッチング窓口を活用するなどして福祉事業所とのマッチングができる。 ・福祉事業所に農業技術を習得した職員がおり作業請負または事業所が農地権利取得し農業に参入できる。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・スムーズに障がい者雇用ができる ・スムーズに農業に参画できる				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・農福連携に関心のある農業者及び福祉事業所の掘り起こし ・農業者側、福祉側のニーズ・課題をヒアリング ・農業基礎研修の実施 ・先進事例の調査	・農福連携に関心があるものの取り組めていない事業者を把握し支援ができる ・農業者と福祉事業所をマッチングでき農作業での連携が行われる ・福祉事業所職員が農業の基礎的な知識を習得	・農作業の人手不足が解消する ・野菜等の生産量や品質が向上する ・障がい者が農作業に従事する ・福祉事業所が農業に参画する	・農業経営が安定し経営が拡大 ・農地の適正管理が行われ耕作放棄地が減少 ・農業が障がい者の雇用の場となる	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
活動の指標	農業者と福祉事業者のマッチング件数	1	1	2	R8年度
		1	2	2	累計 7
	達成率	100.0%	200.0%		
成果の指標(KPI)	農業基礎研修を受講した福祉事業所数	5	5	5	R6年度
		6	1	5	累計 10
	達成率	120.0%	20.0%		

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	6-4-1	
	再	1-6-2	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		19	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	19	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		60	2,210
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	60	2,210

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	農産物ブランド創出・販路拡大事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	農林水産局政策企画課	根拠法令	なし		学校給食用に生産した玉ねぎの規格外品について、有効利用を図るため加工品として開発を図った。 (平成26年度事業名変更)
開始年度	平成19年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 農業者 中小企業経営者	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・市内で生産される農畜産物を原料とした新商品の開発、市内産農畜産物のブランド化による販売促進、ふくおかさん家のお気に入りの販売促進に関する事業について支援を行った。 ・農山漁村地域である志賀島、北崎地区、脇山地区の特産品を活用した加工品の販売促進支援や開発支援を行った。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか R8年度までに累計51品目の加工品開発を目標としており、R8年度段階で効果等を踏まえ、継続検討を行う。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 6次産業化による、新たな商品開発が行われる。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	市内で生産される農畜産物を原料とした新商品の研究・開発及び販売促進に関する事業について、開発に必要な加工機器の購入、パッケージデザインの作成、イベント等におけるPR、出展に係る費用の補助を行う。	農業者、中小企業者が加工品開発等に取り組む。	農業者、中小企業者が6次産業化に取り組む、新たな商品開発をする。	農産物の付加価値が高まり、生産者、中小企業経営者の所得が向上する	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	新商品の開発等に取り組む事業者の数	R2年度 3.0 R3年度 3.0 R4年度 3.0 最終年度 R年度	R2年度 3.0 R3年度 1.0 R4年度 3.0 最終年度 R年度	R2年度 39.0 R3年度 39.0 R4年度 43.0 最終年度 R年度	R2年度 41.0 R3年度 39.0 R4年度 51.0 最終年度 R年度

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	6-4-1	施策成果指標 加工品開発等に取り組む事業者の数
	再	-	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計			2,675
歳入	特定財源	0	
	一般財源	2,675	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		3,925	3,520
歳入	特定財源	0	
	一般財源	3,925	3,520

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	アグリDXプロジェクト(EC活用推進)			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	農林水産局政策企画課	根拠法令	なし		新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、外食産業への需要等が低下したことをきっかけである。 (新型コロナウイルス感染症と共存する、新しい生活様式へ対応した、市内産農産物の購入機会を提供するとともに、新たな販路拡大にチャレンジする農業者を応援するため開始。)
開始年度	R3年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか モニター農家及び市内の農家	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①モニター農家に対するEC活用支援 福岡市が選定したモニター農家(個人・団体合わせて6組)に対して、モニター農家がECにて販売する農産物の選定や価格設定、商品パッケージやECサイトに掲載する写真、デザインの提案、助言等の販売力向上に係る各種支援を実施した。 ②アグリDXプロジェクトの広報業務 SNSによる動画配信、広報動画の公開により、モニター農家の取組みを広報した。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか R8年度までに市内農家のEC開設数が30を超えることを目標にしており、R8年度段階又は市内農家のEC開設数が30を超えた段階で効果等を踏まえ、継続検討を行う。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか モニター農家が農産物のEC(電子商取引)を開設し、新たな販路を拡大する様子をPRすることで、それを見た市内農家に取組みが広がり、ひいては市内農家の所得が向上するようにしたい。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)								
	モニター農家に対するEC活用支援、アグリDXプロジェクトの広報を行う。	モニター農家がECを開設(又は運用改善)する。	モニター農家の取組みを見た市内農家がECの開設(又は運用改善)をする。	市内農家の販路が拡大し、所得が向上する。								
活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)								
		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	モニター農家数	目標		10.0	10.0	R 年度	市内農家のEC開設数	目標				R8年度
		実績	-	6.0	6.0	-		実績	-	10 (現状値)	14.0	30.0
		達成率		60.0%	60.0%			達成率				
		目標				R 年度		目標				R 年度
		実績						実績				
		達成率						達成率				

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	6-4-1	施策成果指標
	再	-	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		2,898	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	2,898	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		0	2,125
歳入	特定財源	0	
	一般財源	2,125	

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	アグリDXプロジェクト(スマート農業推進)			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	農林水産局政策企画課	根拠法令	なし		本市の農業においては、従事者の減少や高齢化が進む中、所得向上や担い手の確保に向けた取り組みを進めているが、効率化・省力化が見込めるスマート農業の導入について、費用対効果・メリットの不明瞭さなどから、生産者が活用を躊躇する傾向が依然としてあり、現場普及が進んでいない状況にあるため			
開始年度	R元年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市内の農家	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①スマート農業技術について情報収集を行い、九大やJA等と協議したのち、実証実験を行った。 ②生産者・大学・県・研究機関等の参画のもと、WGを開催し、生産現場でのスマート農業実装に伴う効果を定量的に検証し意見交換を行った。 ③活用におけるメリット等のPRをSNSにて配信した。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか R6年度までに累計4品目においてスマート農業技術の導入を目標にしており、R6年度段階で効果等を踏まえ、継続検討を行う。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 生産現場での早期の普及拡大を図り、デジタル化による既存農家の生産性の向上、また魅力ある農業の創出により、新規参入を促進し、本市農業の強い生産基盤づくりへつなげていく。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	スマート農業技術について情報収集を行い、九大、JA、業者等の関係者と協議。その後、実証実験を行う。	実証実験を行うことにより、多くの生産者(農家)がスマート農業技術について認知。	補助金等の活用により、スマート農業を導入する。	デジタル化による既存農家の生産性の向上、また魅力ある農業の創出により、新規参入を促進し、本市農業の強い生産基盤づくりにつなげる。								
活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	実証実験数	目標		2.0		R 年度	新たにAI・IoT等のデジタル化を取り入れる生産品目数	目標	2.0	3.0	3.0	R6 年度
		実績	-	3.0	0.0	2.0		実績	2.0	2.0		4(累計)
		達成率		150.0%				達成率	100.0%	66.7%		
		目標				R 年度		目標				R 年度
		実績						実績				
		達成率						達成率				

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 再	6-4-1 -	施策成果指標 なし
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	農林水産業とその関連ビジネスの振興		
事業群	経営の充実強化、新たな担い手づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳入		歳出合計	52
	特定財源		0
	一般財源		52
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入		R2	R4
歳出合計		71	826
	特定財源	0	0
	一般財源	71	826